

平成30年度 北海道胆振東部地震災害 緊急調査支援補助事業 調査結果報告

調査課題名：胆振東部地震による災害廃棄物の環境安全な処理処分

研究代表者 所 属： もの創造系領域
職 位： 准教授
氏 名： 吉田 英樹

調査成果（1）D-Waste Netによる緊急現地調査への協力

- 2018年9月14日（発災後8日目）
 - 国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター長大迫氏から環境省との現地調査の依頼に対処
 - 北海道大学廃棄物研究者3名派遣依頼（9月20日調査
吉田は9月27日現地調査実施）
 - 現地調査の状況を3名から後日ヒアリング
- ヒアリングによる現地の状況
 - 発災後8日目時点で**仮置き場**が設置されていた（市民による持ち込み）
 - 仮置き場に搬入されている災害廃棄物には、地震による被災とは関係がないような廃棄物（ブラウン管テレビ、家具など）が多く持ち込まれていた
 - 分別（可燃、不燃、その他）が不十分な場所もあった

調査成果 (2) 災害廃棄物仮置き場の現地調査の実施

仮置き場調査(安全性確認)



サーモグラフィーでの
温度測定で高温帯なし
ガスの発生なし

調査成果 (3) 災害廃棄物発生量の推定

厚真、安平、むかわの被害状況[棟] (発災直後)

	全壊	半壊	一部損壊
厚真	222	308	1,045
安平	93	351	2,412
むかわ	30	119	3,147
合計	345	778	6,604

北海道:原単位
全壊:49.6t/棟
 半壊:10.0t/棟
 一部損壊:5.0t/棟

厚真、安平、むかわ災害廃棄物発生推定量[t]

	全壊	半壊	一部損壊	計
厚真	10,419	2,891	4,904	18,214
安平	4,365	3,295	11,320	18,979
むかわ	1,408	1,117	14,770	17,295
合計	16,192	7,303	30,994	54,488

被災家屋解体の災害廃棄物推定値**54,000t**

3町の年間の**一般廃棄物の合計約6000tの10年分**

調査結果の活用等

- D-Waste Netによる緊急現地調査への協力
 - ✓ 胆振東部地震発災直後の現地状況を把握し、仮置き場管理の問題点の把握→今後の災害時の対応策に反映
- 現地調査
 - ✓ 廃棄物処理処分の概要を把握し、災害廃棄物仮置き場調査により火災に至る温度上昇をモニタリングした→現地の安全管理方法の提案（火災の未然防止）
- 災害廃棄物の発生量予測
 - ✓ 厚真・安平・鷗川での被災家屋解体撤去による災害廃棄物の発生量を北海道特有の住宅構造を基礎に推定した→災害廃棄物処理計画への反映（道内自治体計画策定の支援）
- 今後も厚真町で仮置き場調査を継続し、現地安全管理助言及び災害廃棄物発生量の推定精度の評価を行う予定